

全力の試合を、全力で応援 ねんりんピック・内子町軟式野球交流大会

60歳以上が出場する全国大会「ねんりんピック愛顔のえひめ2023」が県内各地で開かれました。内子町では軟式野球交流大会を10月29～31日の3日間、内子運動公園で開催しました。全国から参加した6チームによる熱戦に、町内の中高生やスポーツ少年団の子どもたちが「頑張れ」「ナイスバッティング」と大きな声援を送っていました。決勝戦は徳島県と静岡県チームが対戦。徳島が3点リードで迎えた最終回、静岡の連打で2点を返されるも最後は逃げ切り、見事優勝の栄冠に輝きました。



全力で白球を追う

1_愛媛県代表・やまじ風シニアのキャプテンが選手宣誓 2_大会高齢選手を表彰 3_小野植正久町長による始球式 4_巧みなバッティングを見せる選手 5_味方の活躍にベンチが盛り上がった6_力強いフォームでボールを投げ込む 7_年齢を感じさせないはつらつとしたプレーを見せる 8_優勝した徳島県代表・国府球友クラブのバッテリーが、がっちりと握手



応援が選手の力に

9_「おもてなしコーナー」で選手や来場者を歓迎。みそぎの里の皆さんはちらしずしやおはぎなどを提供した 10_試合を終え、おもてなしのもち麦うどんを味わう選手 11_内子高校野球部の皆さんがボールボーイやグラウンド整備で大会をサポート 12_選手の全力プレーを陰で支えた審判団 13_スポーツ少年団の子どもたちがスタンドから大きな声援を送った



小野植町長に目録を手渡し笑顔の浜田さん(右)

株浜田工業が町に寄付 企業版ふるさと納税で地域を応援

(株)浜田工業(吉田明弘代表取締役)から内子町へ企業版ふるさと納税が寄付され、10月26日に町長室で贈呈式が行われました。同社創業者の浜田富行さんら3人が出席。小野植正久町長へ目録を手渡し「妻のふるさとである小田地域を、私も

ずっと忘れてはいけな
いと思
い仕事
をして
いる。
将来を
担う若
い人の
力にな
れたら
」と伝
えました。
企業版
ふるさ
と納税
は、企
業が町
の地域
創生を
応援す
るため
に寄付
できる
制度で
す。い
ただい
た寄付
は小田
分校の
魅力に
活用す
る予定
です。

内子町と南海放送(株)が「地域情報発信に関する協定書」を締結し10月23日、内子町役場で締結式を行いました。同社代表取締役社長の大西康司さんと小野植正久町長が協定書に署名しました。
この協定は町と南海放送ラジオが互いの情報発

信に協力し、発展を図るもの。小野植町長は「多くの人に内子を訪れてもらえよう、まちの話題を広く伝えたい」とあいさつ。大西さんは「リスナーは新鮮な情報を求めている。町と連携して地域活性化とラジオの価値向上につなげたい」と応えました。



小野植町長と南海放送ラジオの応援サポーター・菊地義一さん(右)が生収録

姉妹都市・ローテンプルク訪問団が 住民たちと内子の文化体験

内子町と姉妹都市盟約を締結するドイツ・ローテンプルク市から、マルクス・ナザー市長ら3人が11月1～4日の間、内子町を訪れました。
この訪問交流事業は両市町の交流を促進し、伝統文化などへの理解を深めるために実施しています。同市から訪問団を招くのは6年振り、一行は八日市護国の町並みや

小田深山溪谷を散策した他、天神産紙工場での紙漉き、内子座での狂言ワークショップなどを体験。住民と交流しながらひとときを過ごしました。
ナザー市長は「伝統的な文化や建物を、大人も子どもも一緒になって守る内子町を尊敬している。住民相互の交流も再開して、より親睦を深めたい」と語りました。



上_狂言独特の所作を子どもたちに教わった
下_天神産紙工場で紙漉きをするナザー市長